

させば民報

2024年2月号外 定例佐世保市議会の報告を紹介します



Facebook



LINE



日本共産党佐世保市議会議員 小田のりあき 市議会報告

発行 日本共産党佐世保市委員会
電話 0956-25-6811

小田のりあき市議は佐世保市議会12月定例会で犬・猫の殺処分ゼロと鳥獣被害対策について質問しました。

ペットの去勢・不妊手術の助成拡充を

不幸な命ゼロを目指して

犬や猫などのペットは、今日では家族やパートナーとして飼育する人も少なくありません。大事に飼われている犬や猫は幸せですが、中には飼い主に虐待を受けている犬や猫に関する報道を見かけることも少なくありません。また、終生、過酷な環境でいきている野良犬や野良猫もいます。保健所への持ち込みや捕獲による犬や猫の殺処分数



は、この間、市民団体や保健所の譲渡・返却の懸命の努力で2010年度には年間20万件を超えていたものが、2020年度には2万3800件まで減少しました。

しかし、この間、新型コロナウイルス感染のパンデミックによって、在宅機会が増加したことに伴って、ペットを飼い始める人が急増しました。しかし、かつての日常が戻りつつある今、ペットを手放そうとする人たちが増えていることに懸念が広がっています。不幸な犬や猫を増やさないために必要なことは、一度飼ったペットを最期までみ

るということと望まれない命、幸せに成れない命を作らない、作らせないことです。そのためには避妊去勢手術の拡充が欠かせません。環境省の計算では、1匹の雌猫が3年後には2000匹増えると試算されています。

また、2022年6月に施行された改正動物愛護法により、犬猫のマイクロチップ装着が義務付けられました。原則ペットショップやブリーダーなど販売業者に義務化され、2022年6月以降に販売業者から迎えた猫にはマイクロチップが装着されています。すでに飼っている猫へのマイ

クロチップの装着は努力義務となり、希望する人は動物病院で装着してもらえます。この義務化には、マイクロチップに猫の所有者と猫の情報を登録することで、猫を捨ててしまうことがないようにしたり、飼い主さんと何らかの理由で離れてしまった猫が飼い主さんとスムーズに再会できるようにしたりするなどの目的があります。すでに飼っている猫へのマイクロチップの装着は努力義務にとどまっています。

そこで、小田市議は犬猫の不妊去勢手術制度の拡充とマイクロチップ装着費用の助成を求めました。宮島市長は「マイクロチップ装着に係る費用の助成については、事業としての有効性も含め研究してまいります。また、地域猫不妊・去勢手術費助成制度の拡充については、より適切な制度運用に配慮していくよう、引き続き、動物行政の效果的な推進に努めてまいります」と答弁しました。